

薬剤の休薬を提案することで副作用の発現を回避した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、長期不動状態時に禁忌の薬剤について休薬を提案することで、副作用の発現を未然に回避できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶顕微鏡的多発血管炎の加療目的で緊急入院となった患者

【持参薬（一部抜粋）】

ラロキシフェン塩酸塩錠 60mg 1回1錠 1日1回 朝食後

（※当院採用はエビスタ錠 60mg）



Iさん



Iさんのご家族

持参薬確認時



Iさんのご家族

Iさんはラロキシフェンという骨粗しょう症のお薬を普段飲んで
いますね。ここ最近のIさんの様子はいかがでしたか。

実はここ数日痛みが強くて、ほぼ寝たきりの状態なんです。

そうでしたか。寝たきりの状態でラロキシフェンを服用する
と、血栓ができやすくなるおそれがあるため、服用を続けて
もよいか医師に確認しておきますね。



薬剤師



医師

Iさんですが、ラロキシフェンを服用中で、ここ数日はほぼ
寝たきりの状態のようです。
ラロキシフェンは、静脈血栓塞栓症のリスクが上昇するた
め、長期不動状態時には禁忌となっております。
歩行が可能になるまで休薬してはいかがでしょうか。

そうなんです。それでは、ラロキシフェンは歩行できるまで
休薬します。



薬剤師

入院後、ラロキシフェンは休薬となり、静脈血栓塞栓症の発症なく経過した。

長期不動状態時に禁忌の薬剤について休薬を提案することで、重大な副作用の発現を
未然に回避し、安全な薬物療法に寄与できた。